

総合的な学習の時間

1 探究を踏まえた総合的な学習の時間の改善・充実

(1) 総合的な学習の時間における探究的な学習

総合的な学習の時間は、思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たすものであり、学習指導要領では、総合的な学習の時間の特質や目指すところを、次のとおり目標として示している。

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。

総合的な学習の時間において、「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して」としたのは、次の理由による。

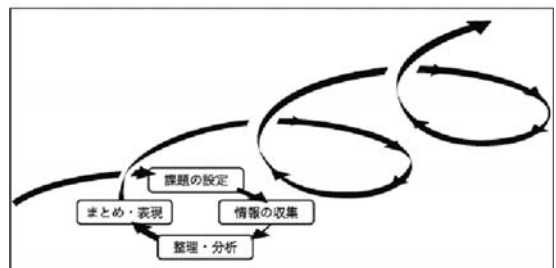
- 「生きる力」が全人的な力であることを踏まえると、横断的・総合的な指導を一層推進する必要がある。
- 各教科・科目等の学習を通して身に付けた知識・技能等は、本来生徒の中で一体となって働くものと考えられるし、また、一体となることが期待されている。
- 容易には解決に至らない日常生活や社会、自然に生起する複合的な問題を扱う総合的な学習の時間において、その本質を探って見極めようとする探究的な学習によって、この時間の特質を明確化する必要がある。

総合的な学習の時間では、生徒が自ら設定した課題に対して、課題の解決を目指す探究的な学習として展開されることが期待されている。探究的な学習においては様々な学習形態が考えられるが、いずれの場合も問題の解決や探究の過程において、次の学習の過程が繰り返されることが重要である。

- ①【課題の設定】体験活動などを通して、課題を設定し課題意識を持つ。
- ②【情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする。
- ③【整理・分析】収集した情報を、整理したり分析したりする。
- ④【まとめ・表現】気づきや発見、自分の考えをまとめ、判断し、表現する。

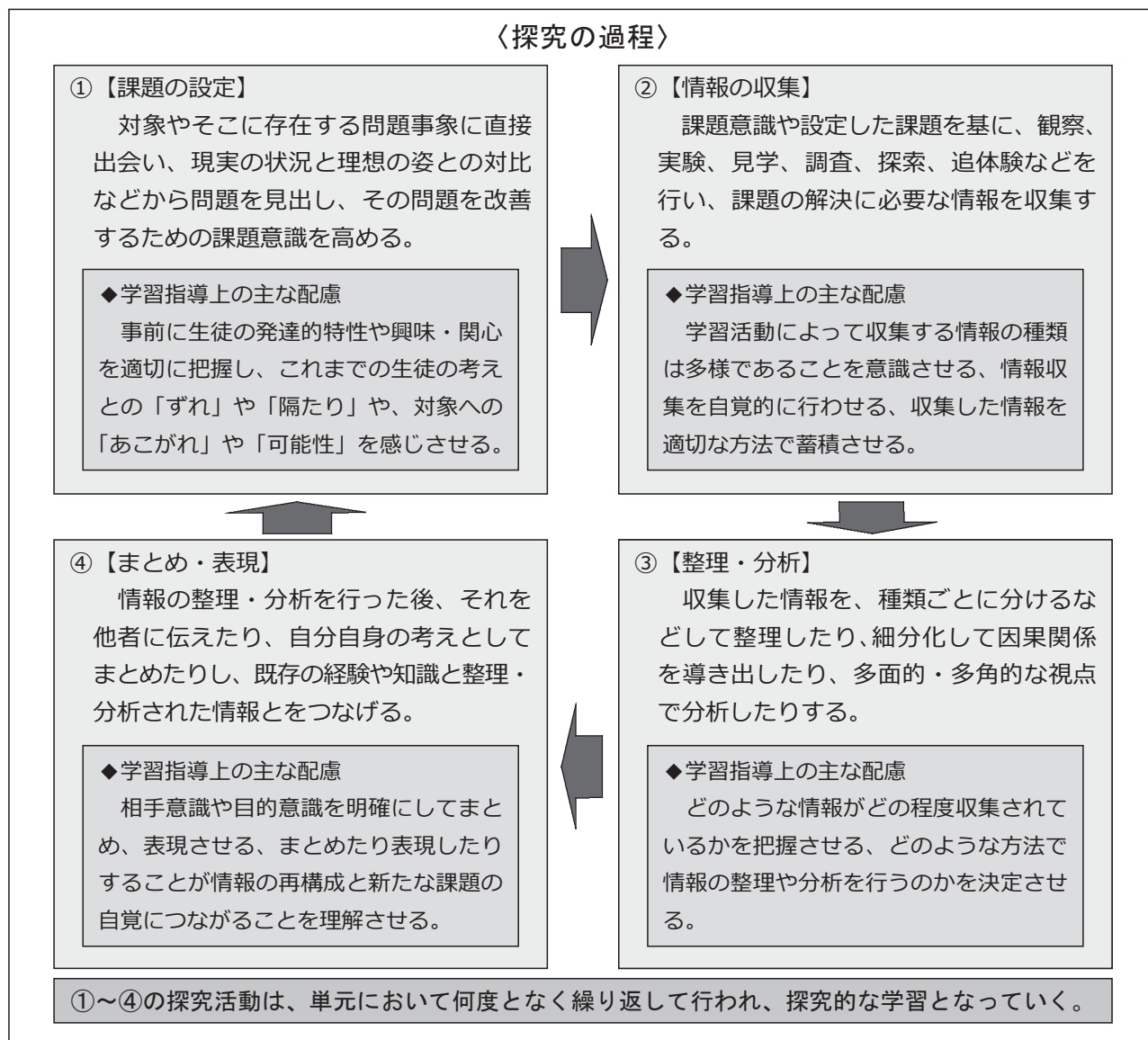
①～④の過程は、順番が前後することや、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合もある。こうしたイメージを教師が持ち、探究的な学習を具現するために必要な教師の指導性を発揮することが重要である。また、この探究の過程は、右図のように何度も繰り返され、スパイラルに高まっていく。

探究の過程の連続



(2) 学習過程を探究的にすること

総合的な学習の時間においては、生徒が自ら課題意識を持ち、その意識が連続発展することが欠かせない。しかし、教師は何もしないでじっと待つのではなく、教師が意図的な働きかけをすることが重要である。次に、それぞれの探究の過程での学習活動のイメージと、具体的な教師の学習指導上の主な配慮について示す。



[探究の過程における学習活動の具体例（テーマ：地球温暖化やエネルギーの問題から自分の生活を見直そう）]

- ①【課題の設定】 国際的な問題となっている地球温暖化やエネルギーに関する様々な問題事象を資料などから把握し、そうした問題事象と日常生活や社会との関わりを明確にすることで、解決すべき身に迫ったものとして課題を設定する。
- ②【情報の収集】 国語科で身に付けた、目的や場に応じて、効果的に話す力や的確に聞き取る力を生かし、老人などから昔の生活の様子を聞き取る。また、理科で学んだエネルギー利用に関する内容や地理歴史科で学んだ資源の埋蔵量や分布に関する内容を関連付けて考え、調査対象を深めたり絞り込んだりする。
- ③【整理・分析】 数値化された情報をグラフにしたり表計算ソフトを使って処理したりする。さらに、比較、分類、序列化、類推、関連付けなどにより考える、因果関係から考える、多面的・多角的な視点で考える。また、適宜、問題の解決や探究活動の過程を振り返り、自分の取組と設定した課題との整合性を点検する。
- ④【まとめ・表現】 論文やポスター、プレゼンテーションソフトなどの手法を使い、探究活動によって分かったことや考えたことを、友人や保護者などの他者に分かりやすく伝える。なお、文章表現のほか、絵画や音楽、またはそれらを組み合わせ合わせた総合表現など、各教科・科目で獲得した表現の手法を積極的に活用する。

2 「アクティブ・ラーニング」の視点からの総合的な学習の時間の改善・充実

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会が平成28年8月に公表した「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（以下、「審議のまとめ」という。）において、「アクティブ・ラーニング」の視点から、授業改善に向けた取組を活性化する必要があることが示され、総合的な学習の時間については、次のことなどが示された。

(1) 「主体的な学び」の視点

探究の過程の中で主体的に学んでいく上では、課題の設定と振り返りが重要である。課題の設定に当たっては、自分事として課題を設定し、主体的な学びを進めていくようにするため、実社会や実生活の問題を取り上げることや、学習活動の見通しを明らかにし、ゴールとそこに至るまでの道筋を描きやすくなるような学習活動の設定を行うことが必要である。振り返りについては、自らの学びを意味付けたり価値付けたりして自己変容を自覚し、次の学びへと向かう「学びに向かう力」を培うために、言語によりまとめたり表現したりする学習活動を意識することが必要である。

なお、振り返りは授業や単元の終末に行うものとは限らず、学習の途中において、見通したことを確かめ、必要に応じて見通しを立て直すことも考えられ、こうした振り返りを主体的に行う資質・能力を育てることも重要である。

(2) 「対話的な学び」の視点

多様な他者と力を合わせて問題の解決や探究活動に取り組むことには、①他者へ説明することにより生きて働く知識や技能の習得が図られること、②他者から多様な情報が収集できること、③新たな知を創造する場を構築できること、といった良さがある。例えば、情報を可視化し操作化する思考ツールの活用などにより、生徒同士で学び合うことを助けるなどの工夫によって、生徒は思考を広げ、深め、新たな知を創造することができるものと考えられる。

なお、協働的に学習することはグループとして結果を出すことが目的ではなく、一人一人がどのような資質・能力を身に付けるかということが重要である。また、「対話的な学び」は、他の生徒と活動を共にするというだけでなく、一人でじっくりと自己の中で対話すること、先人の考えなどと文献で対話すること、離れた場所をICT機器などでつないで対話することなどを含め、様々な対話の姿や対象が考えられる。

(3) 「深い学び」の視点

「審議のまとめ」において、各教科等における学びの過程の中で、「どのような視点で物事を捉え、どのように思考していくのか」という「見方・考え方」が鍛えられ、こうした「見方・考え方」が、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなし、教科等の教育と社会をつなぐものとされた。次期学習指導要領においては、「見方・考え方」を軸としながら、幅広い授業改善の工夫の展開が期待されている。

総合的な学習の時間では、探究の過程を一層重視し、これまで以上に学習の過程の質的向上を目指すことが求められる。実社会・実生活に即した学習課題について探究的に学ぶ中で、各教科等の特質に応じて育まれる「見方・考え方」を総合的に活用することにより、個別の知識や技能は関連付けられて概念化し、能力は実際の活用場面と結び付いて汎用的になり、多様な文脈で使えるものとなることが期待できる。

3 総合的な学習の時間の充実にに向けた取組 一教職員全体の指導力の向上を図る取組一

総合的な学習の時間を充実させ、その目標を達成する鍵を握るのは、指導する教師の指導計画の作成と運用の能力、そして授業での指導力や評価力などである。さらに、地域や学校、生徒の実態に応じて、特色ある学習活動を生み出していく構想力も必要である。また、総合的な学習の時間は、教師がチームを組んで指導に当たることによって、生徒の多様な学習活動に対応できることから、教職員全体の指導力向上を図る必要もある。したがって、全ての学校において年間の研修計画の中に、総合的な学習の時間のための校内研修を位置付けることが極めて重要になる。

A高等学校では、授業公開において、「教員相互による授業評価シート」を作成、活用することにより、校内研修及び総合的な学習の時間の充実に図っている。

| 教員相互による授業評価シート | | | | | | | |
|--|--|---|---|----------|------|----|----------|
| 学級 | 2年〇組 | 科目 | 総合的な学習の時間 | 授業者 | 2学年団 | 場所 | 4階各H-R教室 |
| 授業日 | 平成 〇年 〇月 〇日(〇) 〇校時 | | | | | | |
| 1 単元(本時)の授業目標(到達目標・行動目標・生徒に身に付けさせたい力等)を記載してください。単元名:「地域と私たちの未来」 | | | | | | | |
| | 到達目標・行動目標:生徒に身に付けさせたい力等 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 主体的な学習態度 | | | |
| (1) | 分かりやすく相手に自分の意見を説明したり、相手の意見をよく聞いたりすることができる。 | ○ | | | | | |
| (2) | お互いの良い所や違いを認め、チームで協力して班の意見をまとめることができる。 | ○ | | ○ | | | |
| (3) | 異なる意見から得た気づきを生かして考えを発展させることができる。 | | ○ | ○ | | | |
| (4) | 地域を活性化する政策について、各班の主張を理解し、クラスの政策をまとめることができる。 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 2 本時のポイント:板書、発問、説明、生徒の気づき等 「地域を活性化する」政策提案をクラスでまとめることで、これまでの学習のまとめとする。 | | | | | | | |
| 3 授業の構成及び学習活動(学習指導案) | | | | | | | |
| | 生徒の学習活動 | 指導内容・留意点 | 評価の観点 | | | | |
| (5) 導入 | 準備:黒板にマトリクス表を貼る 生徒はシクソー班で番席 政策提案カードを確認し、文字が薄いもの、小さいものはペン書きする | 前回集めたカードを班に返し、書き直す必要がある班には書き直し用カードを渡す。 準備)マジックペン、セロテープ マトリクス表 | | | | | |
| 展開 | 1 各班の政策がマトリクス表のどこに当たるのか班ごとに考え、簡潔に説明できるように要点を確認する。(10分) | これまでに調べたこと、考えたことをわかりやすく伝えるように促す。 1 班内の打合せができるように気を付ける。 | 要点を押さえた分かりやすい説明ができるか。 | | | | |
| | 2 班の代表者が順番に黒板の前で、自分達の班の政策が、どのような課題を解決するために、どのような世代に向けて、どのような効果を期待しているのか(これまでの学習のまとめ)を説明し、マトリクス表に政策カードを貼る。(15分) | 2 発表が全体に伝わるように、簡潔に説明するようにする。 3 似たような政策をまとめ、多数の支持を得られそうな政策を選ぶ、ユニークな政策を選ぶ、少数の班しか出さなかったが重要な政策など、選定基準はいろいろとあることに気付かせる。 | 各班の提案を理解することができるか。 各班の意見をクラス全体としてまとめることができるか。 | | | | |
| まとめ | 3 マトリクス表を見ながら、クラスの代表として1年生に訴える政策を3つ程度に絞る。(10分) | 4 3で絞った政策について、クラス代表者とともに1年生にプレゼンテーションする人を決める。 5 本時のまとめ | クラス代表者一発目 プレゼンする人=政策担当者 というイメージで、次回の発表会を意識して選出する。 | | | | |

5 生徒の授業目標達成の状況

6 生徒の活動で注目した点(生徒の視点、発言、協同的な学びの場面や、指導内容・方法、教材、板書・ヒント・発問・説明等)に対しての生徒の反応等で気付いた点

注目した点・参考になった点・疑問点・質問等

生徒の視点
発言
協同的な学び
指導内容・方法
教材
板書
ヒント
発問
説明

生徒の学習に取り組む姿を通して教師の指導について評価し、指導力の向上を図る授業研究を行っている。

7 教科(科目)の評価規準(生徒の活動を含めた具体的な評価:1の項目と連動させ具体的に記入)
授業参観者はこの規準によって評価してください。
他教科の授業の場合は、評価できる範囲で評価してください。

| | 評価規準 | 評価 | | | |
|-----|---|----|---|---|---------|
| | | 知 | 思 | 態 | 評価 |
| (1) | 分かりやすく相手に自分の意見を説明したり、相手の意見をよく聞いたりすることができる。 | ○ | | | 4 3 2 1 |
| (2) | お互いの良い所や違いを認め、チームで協力して班の意見をまとめることができる。 | ○ | | ○ | 4 3 2 1 |
| (3) | 異なる意見から得た気づきを生かして考えを発展させることができる。 | | ○ | ○ | 4 3 2 1 |
| (4) | 道南を活性化する政策について、各班の主張を理解し、クラスの政策をまとめることができる。 | ○ | ○ | ○ | 4 3 2 1 |

(4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない)

8 この授業を参観して、参考になった点を自由に記述願います。

| クラス | 年 組 | 科目等 | 授業参観者(記入者) |
|-----|-----|-----|------------|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

4 生徒の状況:授業中の様子をメモしてください。班を編成している場合は線で区切ってください。

[校内研修の具体的な内容(テーマ)の例]

- 総合的な学習の時間の目標、内容、育てようとする資質や能力及び態度の設定について
- 総合的な学習の時間の教育課程における位置付けや各教科・科目、特別活動及び道徳の全体計画との関連について
- 全体計画、年間指導計画、単元計画の作成及び評価について
- 教材開発の在り方や地域との連携について
- 総合的な学習の時間のためのICTの活用について

[校内研修の例]

- 指導計画作成や教材づくりの演習、テーマに基づくワークショップなどのグループ研修
- 視察報告会、講師を招いての講義などの全体研修